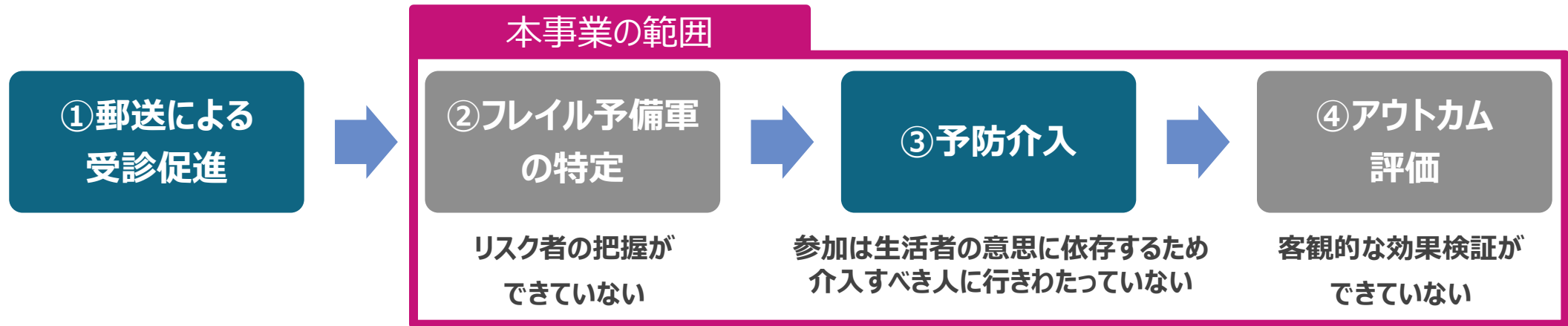


社会実装に向けたハードル

- 一体的実施がより早い段階から機能するには、ハイリスク者の特定と予防サービスが必要
- 人手不足、適切な介入施策、効果測定が社会実装におけるハードル

高齢者の保健事業と介護予防の一体的な実施



フレイルが顕在化していない段階から取り組んでいくべき
よって、リスク者を発見できる仕組みと予防サービスが必要

社会実装におけるハードル



- ✓ 人手が足りない
- ✓ 見つけても何をすれば良いかわからない
- ✓ その効果の測り方もよくわからない

ゆえに後手に
回っているのが実情

フレイルリスク者のスクリーニング

②フレイル予備群
の特定

③予防介入

④アウトカム
評価



プレ口腔フレイル（口腔機能低下症）は21/27人=77.7%が的中
ハイリスク者を効率的に把握でき、自治体による適時適切な住民への予防介入の実現に貢献

スクリーニング
母数**620**

参加意向
112

31

プレ口腔
フレイル判定
162

欠席分を除いた27名の測定結果

健常
1

口腔機能低下症
5

プレ口腔機能低下症
21

オーラルフレイルの改善

②フレイル予備群
の特定

③予防介入

④アウトカム
評価

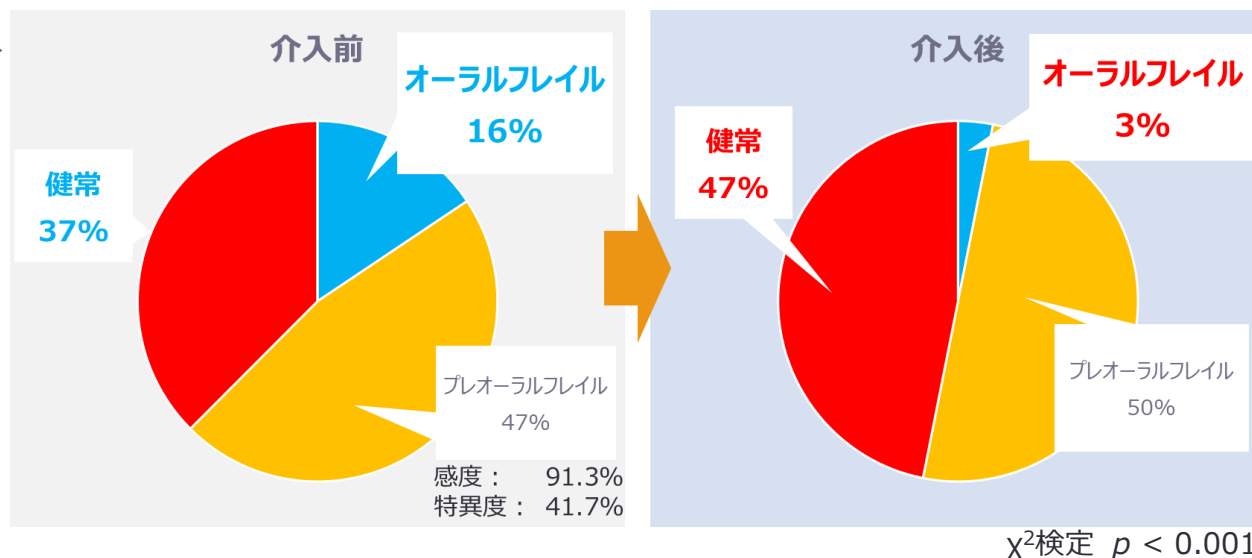


口腔機能改善に資するプログラムの提供とともに、
実測せずとも一定水準の効果測定が可能であることを立証

③予防介入

予防介入前後の変化 ▶

- ・ 本プログラムを通じ、健常の割合が37%から47%に大きく改善
- ・ オーラルフレイルの予防介入プログラムとして効果を確認



④アウトカム 評価

実測と予測との比較 ▶

- ・ 実測に対して70%以上の確率でリスク予測
- ・ アウトカム評価のソリューションとして一定の品質を確認

		リスク予測			
		健常	プレ口腔機能低下症	口腔機能低下症	計
介入後実測	健常	1	4	0	5
	プレ口腔機能低下症	1	20	0	21
	口腔機能低下症	1	4	3	8
計		3	28	3	34
					24名
					70.6%